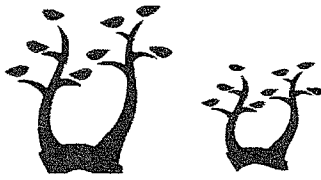


「鵜沼の緑と景観を守る会」機関紙

鵜沼の緑

3月例会・懇談会報告



発行 藤沢市鵜沼地区「鵜沼の緑と景観を守る会」

(略称:みどりの会)

事務局 代表 北村裕彦(携帯090-9836-5157)

平成24年度総会へのお誘い

4月15日(日)15:00から 鵜沼市民センター

私ども「鵜沼の緑と景観を守る会」はこの4月より新しい平成24年度の活動を迎えました。つきましては、4月15日(日)午後3時より、鵜沼市民センターで24年度の活動計画、予算などを策定するために定時総会を開催いたします。会員の皆様にはこの総会にご出席いただき、ぜひ会の運動の進め方、緑を守るための具体策など幅広いご意見・要望を頂戴いたしたく思います。ご欠席の場合は4月14日までに北村宅にご意見・要望を書いた書面をお寄せ下さるようお願い申し上げます。なお、ご書面なき場合、総会での議案審議の賛否を代表にご一任いただいたものとさせていただきます。どうか、皆さま方には本年度も引き続き会の活動にご支援・ご協力を賜りますよう切にお願いいたします。なお、新年度にあたり会費をお持ちいただくと幸いです。

3月例会報告

<司会・古山幹事 書記・佐藤幹事 北村代表より報告>

1 「高木ふれあい荘」美化ネットの登録

「高木ふれあい荘」の清掃は従来、当みどりの会と他団体との共催でやってきましたが、今年度からみどりの会だけで行うことになりました。そのため美化ネットにみどりの会として新たに登録しました。当会の窓口は河上幹事。

2 湘南ふじさわ歴史文化めぐり

湘南藤沢文化ネットワーク主催の第5回歴史文化めぐり(おとなの遠足)は3月17日(土)に行われました。雨と風の荒天でしたが予定どおりに実施され30名が参加しました。

(当会からは5名参加) 場所は昨年好評だった旧東海道藤沢宿。現在まで受け継がれている明治から昭和初期の建物を巡りました。

訪問したところは[三橋家行在所後][かざりや][稲元屋呉服店][石曾根商店]などです。

3 住民協定にむけて動き活発化

ニコニコ自治会、五友会に続いて藤が谷自治会や鵜沼みどり会も住民協定締結にむけて動き出しました。開発業者も市の開発課に問い合わせるなどピリピリしているそうです。一刻も早く鵜沼地区全体に広まるといいですね。

4 境川緑地化の一環として紫陽花の株分け、芝桜の植え方の講習・実施が行われます。

講習会	4月7日(土) 10:00~12:00	片瀬しおさいセンター
実施	4月9日~12日 9:30~12:00(雨天中止)	境川緑道・西浜橋傍・西方公園
講師	廣田邦夫会員(長久保公園みどりの相談員)	
申込み	「湘南の散歩道をきれいにする会」 連絡先:片瀬しおさいセンター	
費用	300円	

定期総会にむけての話し合い

話し合いの大部分は海岸の松の植樹についての意見でした。県が鵜沼海岸に鉄骨の避難タワーをつくることを決定したことを受けて、先月の懇談会では景観にふさわしいデザインのものをとカタワーより小高い丘をつくろうなどのいろんな提案が出されました。今回は会員の方からやはり松林をつくろうという熱心な呼びかけがあり、それを中心に進行しました。まとめてみると次のとおりです。

- (1) 県は海岸にこれ以上松を植える余地はないと言っているが、実際に歩いて調べてみないとわからない。さっそく「海岸を歩こう会」を企画することにしました。日時は幹事会で検討します。
- (2) ある会員が耳轟の碑から烏帽子岩まで歩いてみたところ、植栽の余地は十分にあるのではないかとのことです。
- (3) 松は津波に弱いという報道があるが、松林は流されても被害を喰い止めたことは確かです。松を植え、流されてもまた植え続けるという信念、鵜沼の住民が全国の模範になろうといった熱気のある話し合いになりました。



- (4) 松の植栽については、他の団体にも呼びかけ、意思統一して県にはたらきかけ、また市にも要望していく。
- (5) 「海岸を歩こう会」のように、今年度からは年に3~4回「・・・を歩こう会」を実施する。チラシを配布し会員の多数参加を呼びかける。

「かながわの海岸防災を考える」開催される

主催 NPO法人神奈川県自然保護協会 共催 藤沢市

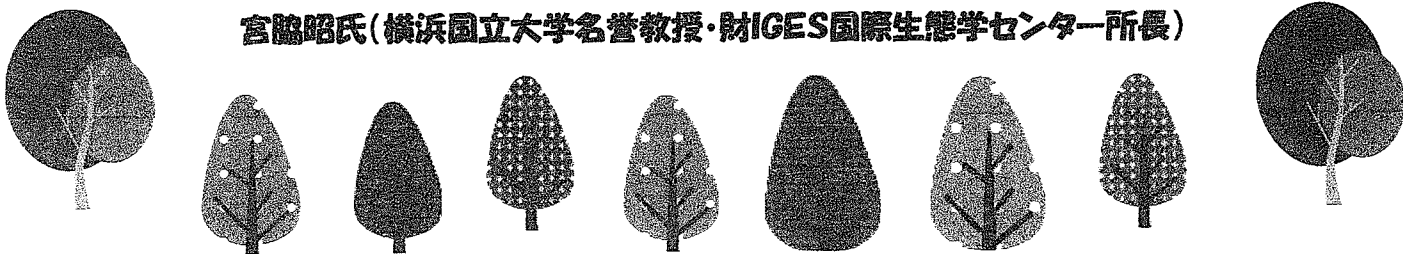
後援 神奈川県 川名自然フォーラム 鵠沼の景観まちづくりの会

鵠沼の緑と景観を守る会 湘南の散歩道をきれいにする会 藤沢市自然環境懇話会

3月24日(土) 18時より鵠沼公民館ホールで行われました。この集いに200余名が参加、会場は熱気に溢れました。概要を宮脇先生のお話にしぼってお知らせします。

災害から命を守るふるさとの森づくりー神奈川県から世界へー

宮脇昭氏(横浜国立大学名誉教授・財IGES国際生態学センター所長)



宮脇先生は2011年4月に「復興構想会議」に「津波からいのちを護る・・・森の長城・・・プロジェクト」を提言されました。今回はこの提言をベースに話されました。以下概要。

全体構想 人類は文明を武器にして何千年に亘り自然を破壊してきた。昨年の3・11大災害は「自然のゆり戻し」である。人類にとって何が大事か、それは生命以外にない。(ここでホールの電源が切れ、一瞬暗くなる。すかさず先生「文明に頼るとこうなる」と笑わせる) 今こそ瓦礫の山から未来へ伝える命の森を。次の百年千年後に再び襲う自然の猛威に向い、命と暮らしを護り、地域経済と共生する最も確実な命の森づくりを提案するとして3つのポイントをあげました。

POINT 1 東日本大震災の瓦礫は貴重な地球資源。新しいエコロジカルな役割で活用。総量3000万トンともいわれる瓦礫は土と混ぜ、通気性のよいマウンド(土塁)築く。次に土地本来の樹種(タブ、シイ、カシなど)を選び、根群の充満した幼苗(ポット苗)を混植・密植する。常緑広葉樹は根が土中に深く入り、瓦礫を抱くことで強固になる。こうして10年~20年で防災・環境保全林が完成。成長後の老大木は伐採して、家具・建築材となり地域経済に貢献する。

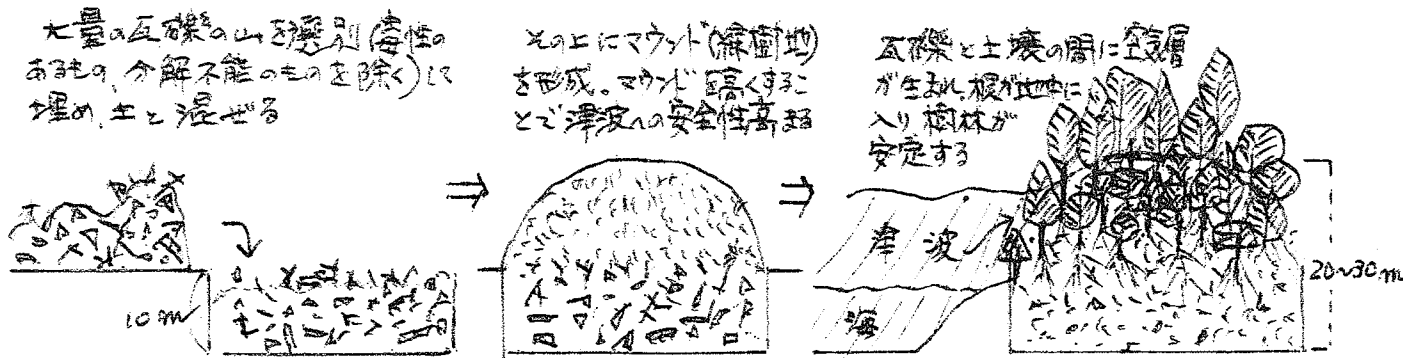
POINT 2 地震プレートに添って構築される強固な緑の長城多層群落の森は津波エネルギーを破砕効果で減殺し、水位を低下させ、引き波ではフェンスとして海への人命の流失を防ぐ。高木(約25m)、亜高木(約15m)、低木(約5m)、マント群落(裾)の幼苗(ポット苗)によってエコロジカルに進められた植樹は短期間で確実に多層群落の森を形成する。特にローカルには海岸線の防災林、環境保全林となる。

POINT 3 国民運動としての未来志向ふるさと森づくり。国内外からの参加で世界が注目する森の長城(9000年続く命のモニュメント)を築く。国および市町村地域プロジェクトの国民参加運動でひとりひとりがふるさとの森づくりに参加。国土愛意識の育成・ECO教育・防災意識育成などをコンセプトに国民が一体となった森づくりの多様な効果は計り知れない。また多くの支援を受けた世界各国の人びととの連帯感や感謝を表す場として位置づけ、復興に向けた新たな「モデルプロジェクト」として世界に力強く発信する。

以上が宮脇先生発言の概要です。その発言の合間に私たちに多くのことを呼びかけてくれました。そのいくつかを紹介します。

- * 森の長城を築くためには9000万本の樹木が必要。
- * 鎮守の森は昔から村を水害から守ってきた。森こそ生命の源。この樹を伐ったらバチが当たると信仰によりブレーキをかけてきた。
- * 県民に呼びかけてポット苗を植える。子どもたちと一緒に植える。あとは管理はいらない。自然に生育する。2年経ったら2m、9年経ったら9m、緑の壁となる。
- * ヘドロは地球の資源。化学物質（セメント・鉄骨）では人命は守れない。
- * ドングリを拾い（タブは7月に種が落ちる）30間水に漬ける。害虫が死ぬ、それをポットで育てる。
- * 病弱で笑ったことのない子が樹を植えた。初めて笑った。樹は生命を育てる。
- * 瓦礫は焼かない。捨てない。そのままマウンドをつくる。
- * なぜ樹を植えるか。自分で自分の生命を保つため。心に樹を植えよう、明日の樹を植えよう。
- * どうか本物の命の森をつくって下さい。神奈川から始めて下さい。

マウンドづくりの過程



瓦礫を埋め立てて活用することは法的に可能か

環境省廃棄物対策課によると、分別せずにそのまま埋めるのは廃棄物処理法に抵触するそうです。コンクリート片など腐敗しないものを大きさをそろえて使用するのには問題ないが、木くず・流木など木質系は腐敗してメタンガスが発生したり、自然発火したりするので同法上問題になる可能性があるそうです。宮脇さんの提言が取り入れられた場合、木質系を取り除いてコンクリート塊や敷石、タイルなどを埋め立て資材とするか、または木質系を埋め立てに使えるように法改正が必要になるそうです。

(毎日新聞・2011年6月5日付 いのちを守る森・・・宮脇昭氏提案より)



4月日程のお知らせ



- 編集会議 4月4日(水) 14:00~
- 広報印刷 4月6日(金) 10:00~
- 高木ふれあい荘清掃 4月15日(日) 9:30~
- 定時総会 4月15日(日) 15:00~
- 斎藤県議(会員)を囲む懇談会 16:00~
- 〇邸清掃 お休み
- 幹事会 4月28日(土) 10:00~

ようやく鶯の声が聞こえるようになりました。桜も厳しい寒さで遅くなりましたが、もうすぐ満開。先日の甲子園、選抜大会の閉会式での石巻工高の主将、阿部君の宣誓は爽やかでじーんときました。これとダブって東北の瓦礫の山を受け入れる自治体が増えていること。本当に喜ばしいことです。藤沢市の受け入れは? とんと聞こえてきませんね。(佐)

編集係より